

Ex 1603-A

5099-1

ロバート・デイックバイ・バツク (香港)

私、英國陸軍經理部、正親衛將校、本籍地サア
イ州ウオリントン・オンスローガートデンス百十一
番地、陸軍少佐ロバート・デイックバイ・バツク、
へ以下宣誓口述スル。

私へ、一九四一年十二月二十五日、日本軍ニヨ
ツテ香港ヲ捕ヘラレタ。ソシテ香港島カラシヤム
スイボトシテ知ラレル香港島岸ノ半島ノ西側ニ在
ル收容所ヘ送レテ行カレタ。私ハシヤムスイボニ
一九四一年十二月三十日カラ一九四五年八月マデ
留ツタ。

一九四二年四月十八日ニ約三百名ノ將校ガシヤ
ムスイボ收容所カラアルギイル街收容所トシテ知
ラレテキル半島ノ他ノ側ノ收容所ヘ移サレタ。
約四十名ノ將校ガシヤムスイボニ留ツタ。アルギ
イル街ハ「エヌ」收容所トシテ知ラレ將校用デア
リ、シヤムスイボ收容所ハ、約ツタ四十名ノ將校
ヘ別トシテ、他ノ階級者ノ收容所デアツタ。

一九四四年五月一日ニアルギイル街收容所ヘ移

5099-2

遇シ、其處ノ將校ハシヤムスイボヘ戻サレタ。其處デハ、將校達ハ他ノ階級ノ者達ト分離サレテ居タガ、シヤムスイボニ居ル間、將校達ハ其ノ身分ト「エス」收容所ト云フ收容所名ヲ依然トシテ領ケテキタノデ、（他ノ階級ノ者達ノ）「エス」收容所ト（將校達ノ）「エス」收容所トハシヤムスイボニ在ツタノミガ分離サレ區別サレテキタ。

× × ×

一九四二年七月、シヤムスイボノ脱走ノ企圖ハ日本軍ニヨリ發見サレタ。暫クシテ、約八名ノ英國ノ下士官兵ガ日本軍ニヨリ移動サセラレタ。連れ去ラレタ者ノ中四名以外ハ全員戻ツテ來タ。連れ去ラレタ者全員ガ意兵隊ニヨリ訊問サレ、米ネ處待サレタト云フ事ヲ聞イタ。私ハ戻ラナカツタソノ四名ニ聞シテハ、一九四五年八月ニ、私が之等四名ガ統制サレタモノトシテ名前ガ乗ツテキル日本軍ノ作ツタ表ヲ見ルマデ、何事モ聞知ナカツタ。皆ノ四名ノ下士官兵ハ次ノ者デアツタ、

第六二〇二二二七	ミドナルセツクス聯隊、海陸兵伍長バーン	
第六二〇二七六七	全	兵 ブランソン
第六二〇〇七九一	英國陸軍長擧隊	兵 デューン
第七六〇八三二一	全	兵 ストツプフォー

× × ×

5099-3

一九四二年十月ニ、總若カノ金ガ停囚懲意ノタ
メ　ローマ法皇處ニヨリ届立テラレタコトラ日本
軍カラ知ラサレタ。私ハ此ノ金ヲ使用スル項目ノ
表ヲ作ルコトラ要求サレタ。私ハ傷病兵用ノ藥品
食糧ヲ含メタ一表ヲ作成シタ。約一ヶ月后此ノ收
容所ノ　ローマ・カトリック教ノ隊附牧師イー・
デエー・グリーン師、此ノ方ヘサリール州ウオリン
トン、マーテモント路三十六「クランフオード」
ニ居ルト恩フガ、其ノ方ガ所長ノ境野（原名不詳）
中尉ニ、要求シタ物品ノ支給ヲハカドラス祓ニト
手紙ヲ出シタ。師ハ所長ノ所ヘ達レテ行カレタ、
ソシテ手紙ノ主旨ヲ説明シテ戻サレタ。十分許リ
シテ　グリーン師ハ所長室ニ呼ベレタ。其處デ彼
ハ倉崎實曹ト井上通譯ノ兩人ニヨリ手デヒドク陳
ラレタ。境野中尉ハ居ネカッタ。私ハ腹打サレタ
后直接ニ　グリーン師ヲ見タガ彼ハ非常ニヒドク
打タレテ居ッタ。彼ハ其ノ後同モナク病院ヘ達レ
テ行カレタガ、私ハコノ處得ガ彼ノ全停囚期間中
彼ノ健康ニ悪イ影響ヲ與ヘタト、他ノ多クノ人々
ト共ニ考ヘタ。

×　×　×　×　×

5099-4

將校連ガアルギイル街へ出發シテ后同モナク、
或ル英國陸軍兵器廠ト停務中ノ他ノ被俘者連ハ日
本軍ニヨリスタンレイテ砲ノ修理ニ使ヘレタ。
私ハ思ヒ切ツテ葛田（原名不詳）通譯ニ抗議シテ
ミタガ、満足ハ得ラレテカッタ。一九四二年ノ終
リ頃、シヤムスイホカラノ停務工作廠ヘカイタ
ツク飛行場ノ拡張ニ就役シタ。英國砲兵隊ノ中尉
イー・エイテ・フイールドト云フ人ガ抗議シタ。
彼ハ德永大佐ノ副官ノ前ニ達レテ行カレ、彼ノ手
デヒドク行タレタ。